

# としよかんだより

【下條村立図書館 161号 2022年11月1日発行】

俳句は日本でいちばん短い文学で「引き算の文学」と言われるそうです。きまりは“五・七・五”文字の言葉を使い季語を入れて表現すること。こんな素敵な俳句が、この秋下條村で詠まれました。「鶏頭(けいとう)の 種限りなく こぼれけり」「草の実を つけて散歩の 犬と夫(つま)」「障子貼る 座敷整い 牛蒡(ごぼう)飯」「木の間より 見下ろす滝の 水さやか」だれが詠んだか?この特集を読めばわかるかも(この4つの句は南信州新聞に11月下旬ごろ掲載される予定)です😊

## 特集「みすゞ下條俳句会」の今。



上段左が丸山さん、右が塩沢さん、  
下段左が宮島さん、右が中村さん。

下條村には、俳句を詠んで、学びあう会があります。会の名は「みすゞ下條俳句会」。今回は、この俳句会の活動の概略をお伝えします。(会の名前の由来は、「俳句結社みすゞ」に所属していることから)

10月17日(月)に行われた定例の句会を見学させていただきました。その時の様子をお伝えします。

### みすゞ下條俳句会 定例会のご案内

日時:毎月第3月曜日 13:30~15:30

場所:村民センター第3会議室

内容:毎月、提出した俳句を会員皆で鑑賞し、感想や質問などを出し合い、新聞・俳句雑誌に掲載します。

### 【会員の皆さんが句会までに行っていること】

4人の会員の皆さんは、日々の生活の中で詠んだ俳句のなかから毎月8つを選び、書き留めて代表の丸山さんに郵送します。全部で32の俳句が集まると、丸山さんがすべての句を順不同に(誰が詠んだか記さず)清書し、句会の原稿を作ります。句会当日は、そのプリントを4人で見ながら一句一句読んで鑑賞します。

俳句を鑑賞する会員の皆さんのようすは、とても楽しそう。ど

んな出来事があったこの句が生まれたのか、その時の気持ちを話したり、句のなかに歌が登場するときは皆で歌ったり♪

ひとつひとつの言葉をていねいに選び、表現する俳句は、まるで言葉で絵を描くよう。ただ過ぎていく毎日を、こんなふうに言葉で表現し、切り取ることができる俳句は、かなり奥深く魅力がありそうです。日本ならではのこの趣ある世界。興味のある方、一度訪ねてみてください(^^) ⇒2ページへ続く1

### 毎月の句会で行っていること

- ① 32の句から、各会員が「推しの7句」を選ぶ。
- ② 1句ずつ読みながら、選んだ人はその句の「どこがいいか」を言う。
- ③ 季語、言葉、漢字が正しいか、表現が気持ちを伝えているかなどを皆で確認していく。
- ④ 月刊の俳句雑誌『みすゞ』(みすゞ俳句会発行:伊那市)に掲載する俳句と、南信州新聞に掲載する句を各1句ずつ選ぶ。⇒代表が各社へ送る。

# 会員さんへのインタビューから

お名前	地区	○俳句との出会い・かかわり ◎俳句のたのしさなど	ご自分のこと	入会
宮島 住枝 さん	北 又	○畑・家の仕事、手仕事(図書館の座布団も)等日々の体験から生まれる力強い俳句が好評。 ◎俳句は自分の気持ちが書けていい。ラクターに乗って出かけ、皆に会えるのが楽しみ。	今年で95歳。ご主人が早く亡くなり41歳で独身。俳画・仮名習字も手がける。友人と海外旅行に出かけた楽しい思い出。	S46年～
中村 喜子 (のぶこ) さん	明地原	○光の園勤務時代の昭和47年“利用者クラブ”の一つとして「俳句クラブ」を立上げ現在も指導を続ける。南信&飯伊俳句大会で受賞◎ ◎俳句は、感じたこと・生活そのもの。	日々の生活、自然が好き。絵&言葉をかくことが好き。毎日日記(5年日記)を書く。枕元に作帳を置き、思いつけば書く。	S46年～
丸山 浩子 さん	吉 岡	○句会の代表。祖母・母に続き俳句会 3 代目。飯田市などの句会にも所属。 ◎上手な俳句に影響されすぎず、できるだけ自分の言葉(感性)で句を詠みたい。	村の議員さん。小学校のはらうたの会代表。図書館友の会会員。子ども、農業、季節の行事を大切に。	H24年～
塩沢美枝子 さん	吉 岡	○芭蕉や一茶の俳句が現代に伝えられることの意義、その魅力を知りたい。句会には丸山さんに誘われて入会。◎言葉を生活の一部として創っていくことが楽しい。	芸術が好きで、コンサート・美術館などに出かけ感性を磨く。外からの新しい風を、句会に運んでくる。	R 3年～

俳句を一句ずつ読み、鑑賞しながら話がはずむ会員さんたち。会が終わると、持ち寄ったお茶菓子でティータイム。宮島さん手づくりのゴーヤの砂糖菓子は絶品でした！



## 下條句会 十月抄

令和四年十月十七日 (月)

- コスモスや こけても咲いて 意気もらふ (宮島住枝)
- 眠られず 腹式呼吸 月の窓 (中村喜子)
- 草むらに 蒲(がま)の穂絮(ほわた)や 古事記伝 (塩沢美枝子)
- 龍の子の のたくるけふの 秋夕焼 (丸山浩子)

\*この四つの句は、月刊誌『みすゞ』の十二月号に掲載されます。『みすゞ』は、図書館に所蔵しています。

### みすゞ下條句会の歴史

- 昭和 20 年代、新井蛙鳴(あめい)(菅野・教育者)は、俳句結社「観月社」(下條村を拠点とした結社)の同人となる。
- 戦後、蛙鳴が村内全域に声がけし「下條俳句会」が結成。
- 昭和 43 年、陽阜郵便局(中島重威局長)に蛙鳴の句碑を建立。
- 昭和 45 年、新井蛙鳴が推薦を受け角川源義(角川書店創設者)が主催する俳誌『河』(S33 創刊)の同人となる。
- 昭和 47 年、光の園(長原)が創設され、利用者の生きがい対策で「俳句クラブ」始動。
- 毎年句集『山天(やまぞら)』を刊行(50 年間)。
- 蛙鳴没後、昭和 52 年追悼句集『新井蛙鳴先生門弟集』(『河』下條グループ) 刊行。

陽阜郵便局祝吟句碑 蛙鳴(あめい)  
「電話さら 梅信こえも 香らむす」  
S43.3.28 農業電話開通記念

# おでかけ文庫のボランティア募集

図書館では、今年から「つどいの広場おでかけ文庫」を始めています。

今後は、村内の各地区へ本を持って出かけ貸出をする「地区いき☆おでかけ文庫」を始めたいと考えています。図書館までなかなか来られない皆さんのところへ、だんだんと…少しずつ…地域をまわって本を届けるのが「地区いき☆おでかけ文庫」です。

そこで、図書館ではこの事業にご協力いただけるボランティア（有償）の方を募集します！活動は月に一回ほど、各地区へ本を積んで車で出かけ、貸出をします（内容は予定ですので変わる可能性があります）。**ご協力いただける方は、図書館までお声がけください<(\_ \_)>**

😊 **ボランティアさんをお願いしたいこと**（図書館スタッフと一緒にこなう）

- ① 本など（雑誌・紙芝居・DVD含む）を箱に入れ、公用車に積む。
- ② 車を運転し、（地区公民館等へ）運び、本を並べる。
- ③ 訪れた利用者に、貸出手続きをする。
- ④ 終了後、本などを車に積み、図書館へ持ちかえる。



## 「図書館の本で作ってみました！ 作品展」☆作品募集します♡

**図書館の本を見て、何かを作ったことはありませんか？**

お料理、工作、縫物、編み物、粘土、人形、ビーズ、小物、ドライフラワー、リース、押し花、生け花、折り紙、きりがみ等…

**あなたが作った作品を、図書館の本と一緒に展示してみませんか？**

お料理など、いま手元にモノはないけど写真（データ）がある！という方も、もちろんOK！写真の展示ができます。

◇もし、そのようなハンドメイド作品があったら、ぜひ出品してください。

◇応募期間は11月から、**集まりしだい、あしたむらんど館内に展示していきます。**

◇家で眠っている、あなたのハンドメイド作品をぜひ、大勢の皆さんに見てもらいましょう(\*^^)v

そして活用した本を、情報⇒「おすすめの本」としてご紹介ください(^)/

図書館には、「**お役立ちのタネ**」がいっぱい！利用者の皆さんからの、**すてきな作品(&写真)**と「**お役立ち情報**」をお待ちしております😊

